

## 過活動膀胱と治療について

最近、テレビCM等で「過活動膀胱」という病名を耳にされたことはありますか？過活動膀胱とは、近年世界的に使用されるようになった新しい病名で、自分の意思とは関係なく膀胱が勝手に収縮してしまう病気です。日本で、2002年に行われた調査結果では、日本人では40歳以上の男女の8人に1人（12.4%）が過活動膀胱の症状をもっており、810万人の過活動膀胱の患者さんがいると推測されます。しかし、実際に治療を受けている方の割合は低く、男女全体で22.7%、女性では8%未満というのが現状です。そこで今回は、過活動膀胱の概要とその治療についてご説明します。

過活動膀胱の主な症状は、①尿意切迫感（急に尿意をもよおし、漏れそう  
で我慢できない）、②頻尿（トイレが近い）、夜間頻尿（夜中に何度もトイレ  
に起きる）、③切迫性尿失禁（尿漏れ）（急に尿をしたくなり、トイレまで我慢  
できずに漏れてしまうことがある）などが挙げられます。また、過活動膀胱  
の原因は、以下の3つがあります。

●**神経因性過活動膀胱**：脳と膀胱（尿道）の筋肉を結ぶ神経の回路に障害が  
起きる。脳卒中や脳梗塞などの脳血管障害、パーキンソン病などの脳の障害、  
脊髄損傷や多発性硬化症などの脊髄の障害の後遺症など。

●**非神経因性過活動膀胱**：骨盤底筋のトラブルなど。特に女性の場合、加齢  
や出産によって、膀胱、子宮、尿道などを支えている骨盤底筋が弱くなったり  
傷んだりすることで、排尿のメカニズムがうまく働かなくなる。

●**その他**：いくつかの原因が複雑にからみあっていて原因が特定できない場  
合もあります。この原因の特定できないものや加齢によるものが、実際には  
最も多く存在しています。

過活動膀胱の治療は、薬物療法や、機能の弱まった膀胱や  
骨盤底筋を鍛える膀胱訓練（尿意を感じても、トイレに行く  
のを少しだけ我慢する訓練）、骨盤底筋体操などによって、尿  
トラブルの症状を軽くすることができます。



## ＜薬物療法＞（カッコ内は当院採用薬の商品名）

### ●抗コリン薬（商品名：ベシケア、バップフォー、ウリトス、ポラキス、トビエース、デトルシトル、ネオキシテープ）

膀胱を収縮させる信号は、「アセチルコリン」という物質が神経の末端から出ることによって膀胱に伝えられます。抗コリン薬は、このアセチルコリンの働きを弱めることで、膀胱の異常な収縮を抑える働きがあります。お薬を服用してから1週間から1か月程度で効果があらわれ、残尿量を検査しながら薬の量を調節します。副作用には、口の中の渇き、便秘などがあります。

### ●β3受容体刺激薬（商品名：ベタニス）

β3受容体は膀胱の筋肉に存在しており、この受容体が活性化されることによって十分に尿を蓄えることができるようになっています。よって、β3受容体刺激薬は、β3受容体を刺激することで膀胱に蓄えられる尿量を増やし、正常な状態に近づける働きがあります。副作用には、γ-GTP 上昇、便秘、心拍数増加などがあります。

### ●α1受容体遮断薬（商品名：ハルナール、エブランチルなど）

α1受容体は、排尿や蓄尿をコントロールする自律神経からの命令を受け止める部位で、前立腺や尿道の筋肉に数多くあります。このα1受容体の働きをブロックすることで、自律神経の過剰な命令によって緊張している前立腺や尿道の筋肉が弛緩してリラックスするため、排尿困難や頻尿、尿意切迫感などの症状が改善されます。但し、ハルナールは、前立腺肥大症を伴う男性の過活動膀胱に対して使用され、上記の抗コリン薬と併用して治療を行うこともあります。女性に対してはエブランチルが使用され、過活動膀胱の他に、高血圧の治療薬としても使用されています。

上記の他、生活習慣として、適切な水分補給を心がけ、カリウムを多く含む食べ物（ほうれん草、納豆、海藻など）や体を冷やす食べ物（スイカ、キャベツ、きゅうりなど）の取りすぎに注意をするなども挙げられます。

排尿に関係した症状などで日常生活に支障がある場合、まず医療機関を受診しましょう。一般的に初診時に行われるのは問診です。どんな症状で困っているのかを具体的に伝えましょう。

お薬のことでご不明な点やご不安な点がある場合には、医師又は薬剤師までご相談ください。

